

# 平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査結果【ダイジェスト版】

## 教科に関する調査結果概要

報告書 P.3～

### ◆福岡県と全国の平均正答数・平均正答率※<sup>1</sup>（公立）

	小学校		中学校			
	国語	算数	国語	数学	英語※ <sup>2</sup>	英語「話すこと」※ <sup>3</sup>
福岡県	9.2/14問 65%	9.3/14問 67%	7.2/10問 72%	9.5/16問 59%	11.4/21問 54%	1.6/5問 31%
全国	8.9/14問 64%	9.3/14問 67%	7.3/10問 73%	9.6/16問 60%	11.8/21問 56%	1.5/5問 31%

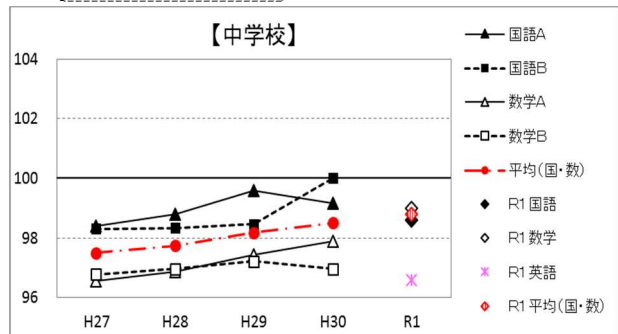
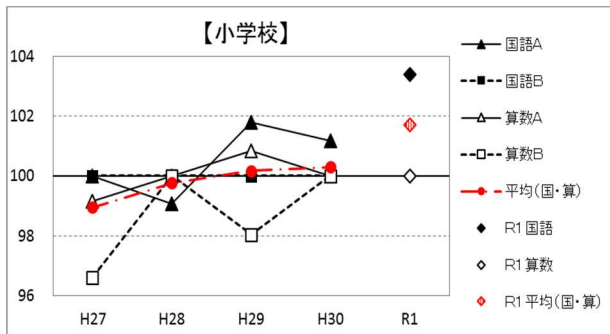
※<sup>1</sup> 平均正答率は、小数第1位を四捨五入した整数値で表示（都道府県は整数値のみが公表されるため）。そのため、福岡県と全国で平均正答数が異なる場合でも、四捨五入によって平均正答率が同じになる場合がある。

※<sup>2</sup> 英語調査は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。

※<sup>3</sup> 英語「話すこと」の全国値は、国立及び私立を含む参考値（全国は、公立のみの公表がないため）。なお、福岡県の値は、公立のみの参考値（都道府県の公表がないため、ローデータを基に福岡県で独自に算出）。

### ◆福岡県の標準化得点の推移※<sup>4</sup>と結果の状況

報告書 P.4～



※<sup>4</sup> R1は、知識と活用を一体的に問う調査問題となったため、前年度からの推移は参考として示している。

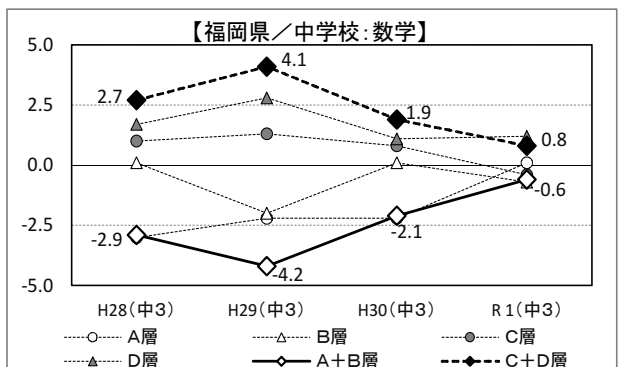
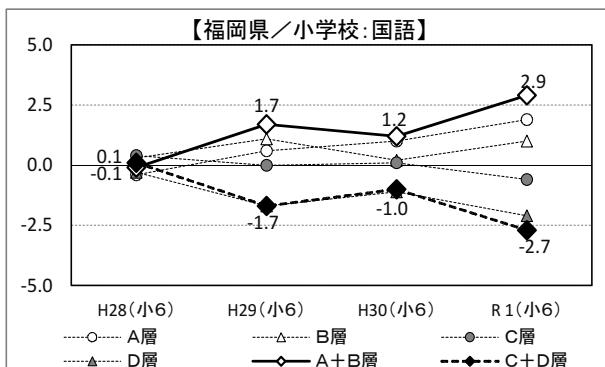
＜小学校＞国語は全国を上回り、算数は全国と同値、**平均(国・算)では5年連続で向上**。

＜中学校＞全教科で全国を下回ったが、**平均(国・数)では4年連続で改善傾向**。

### ◆福岡県の学力層（四分位）の推移

報告書 P.5～

学力層（四分位）の分析によって、C層、D層の児童生徒にとっての苦手領域等を明確にしたり、学校や市町村等における取組がどの層の児童生徒に効果があったのかを検証したりして、今後の授業改善の方策等を見いだすことができることから、本年度から新たに掲載している。



＜小学校：国語＞A・B層が増加、C・D層が減少 ⇒ どの層にも一定の取組効果があったと考えられる。

＜中学校：数学＞A層が増加、C層が減少 ⇒ A層、C層に取組効果があったと考えられる。

◆教科に関する調査結果【小学校】

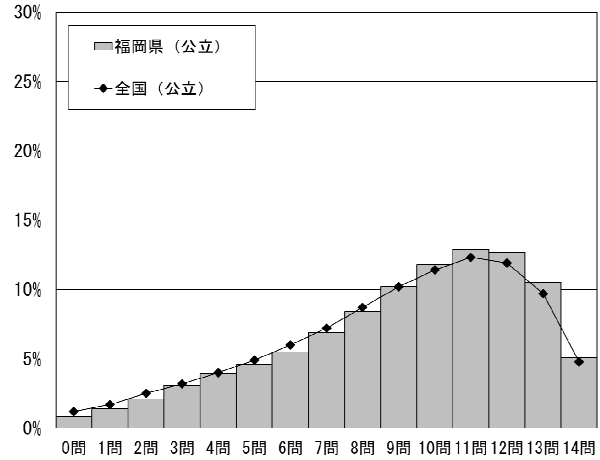
小学校 国語

報告書 P.28～

<分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率 (%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	73.8	72.3
	書くこと	3	55.2	54.5
	読むこと	3	82.8	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	55.9	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	59.3	57.6
	話す・聞く能力	3	73.8	72.3
	書く能力	3	55.2	54.5
	読む能力	3	82.8	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	55.9	53.5
問題形式	選択式	7	76.1	75.1
	短答式	4	51.2	48.7
	記述式	3	59.3	57.6

<児童の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県	9.2 / 14	65	10.0	3.3
全国	8.9 / 14	64	10.0	3.4

◎「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」ことはできている。[2二](89.7%)

▲「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことに課題がある。[1三](29.8%)

◎は正答率が一番高く、▲は一番低かった内容。[ ]内は問題番号、( )内の値は正答率。

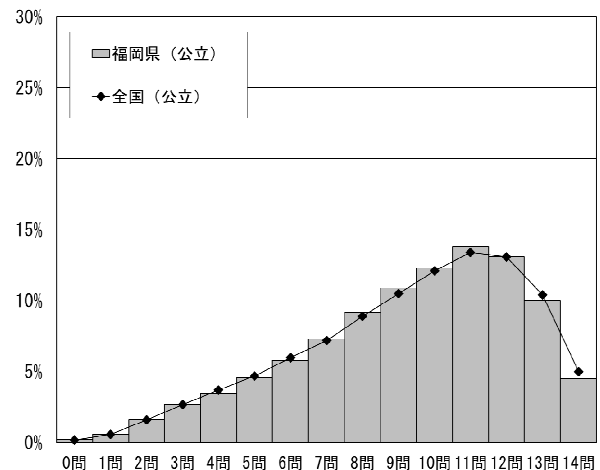
小学校 算数

報告書 P.30～

<分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率 (%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	7	63.5	63.2
	量と測定	3	52.0	52.9
	図形	2	76.6	76.7
	数量関係	7	68.1	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	8	62.3	62.2
	数量や図形についての技能	4	73.3	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	70.4	70.1
問題形式	選択式	5	75.8	75.7
	短答式	5	73.1	72.8
	記述式	4	46.8	47.4

<児童の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県	9.3 / 14	67	10.0	3.0
全国	9.3 / 14	67	10.0	3.1

◎「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る」ことはできている。[2(1)](95.3%)

▲「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」ことに課題がある。[3(2)](31.3%)

◆教科に関する調査結果【中学校】

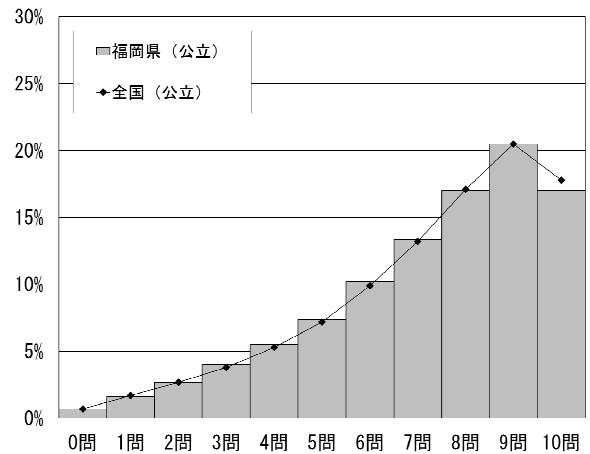
中学校 国語

報告書 P.32～

<分類・区別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率 (%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	70.7	70.2
	書くこと	2	82.0	82.6
	読むこと	3	72.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	65.7	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	77.1	76.5
	話す・聞く能力	3	70.7	70.2
	書く能力	2	82.0	82.6
	読む能力	3	72.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	65.7	67.7
問題形式	選択式	6	72.9	73.6
	短答式	1	54.3	56.8
	記述式	3	77.1	76.5

<生徒の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県	7.2 / 10	72	8.0	2.4
全国	7.3 / 10	73	8.0	2.4

◎「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」ことはできている。[1三](92.0%)

▲「封筒の書き方を理解して書く」ことに課題がある。[1四](54.3%)

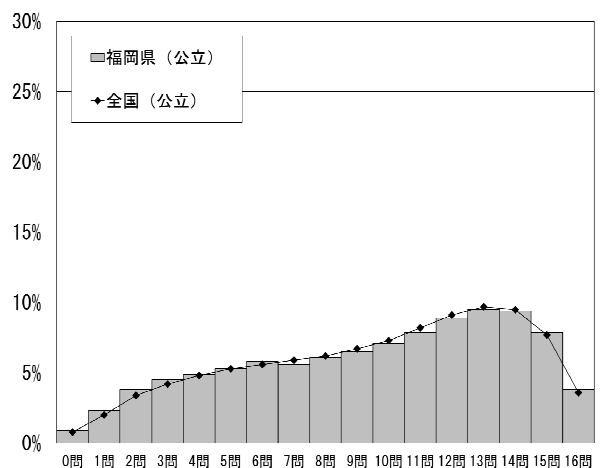
中学校 数学

報告書 P.34～

<分類・区別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率 (%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	5	63.4	63.8
	図形	4	70.4	72.4
	関数	3	41.8	40.8
	資料の活用	4	56.0	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	8	51.1	51.0
	数学的な技能	3	63.5	63.9
	数量や図形についての知識・理解	5	69.7	71.3
問題形式	選択式	5	60.3	60.3
	短答式	7	65.3	66.6
	記述式	4	47.3	47.1

<生徒の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県	9.5 / 16	59	10.0	4.3
全国	9.6 / 16	60	10.0	4.2

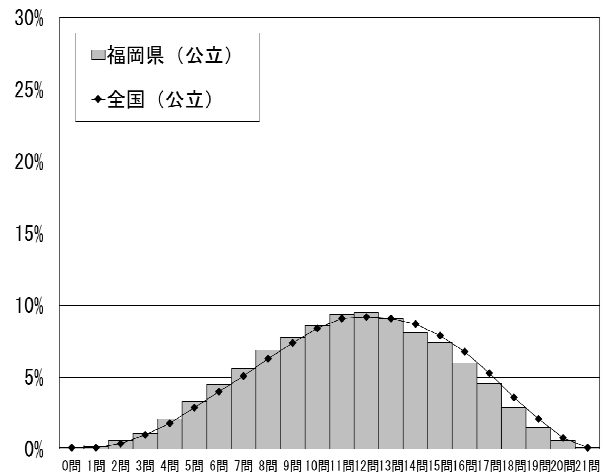
◎「平行移動の意味を理解している」はできている。[3](81.9%)

▲「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことに課題がある。[6(2)](34.8%)

<分類・区別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率 (%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の 領域等	聞くこと	7	66.6	67.9
	話すこと (参考値)			
	読むこと	6	54.5	55.6
	書くこと	8	42.8	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0		
	外国語表現の能力	1	1.3	1.8
	外国語理解の能力	6	43.3	44.7
	言語や文化についての知識・理解	14	62.5	64.7
問題形式	選択式	13	70.1	71.4
	短答式	5	41.7	45.2
	記述式	3	5.4	6.8

<生徒の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県	11.4 / 21	54	11.0	3.9
全国	11.8 / 21	56	12.0	3.9

◎「語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ること」はできている。[1](1) (90.2%)

▲「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」ことに課題がある。[10] (1.3%)

※英語は「話すこと」を除く、「聞くこと、読むこと、書くこと」の結果

## ここがポイント! 学習指導の改善・充実に向けて

### ○ 学力層の分析による一人一人の学力を把握した個に応じた指導

学力層(四分位)の分析は、各学力層の分布やその推移の状況を明らかにします。この分析により、授業のねらいを焦点化し、手立てを具体化することができるとともに、習熟度別少人数授業や各学力層の実態に応じた教材・教具の一層の充実を図ることが可能になります。

### ○ 低学年からの系統性を意識した学習計画の工夫

調査対象学年だけではなく、低学年からつまずきがある場合もあります。「学習指導要領における領域・内容」から各学年の目標や内容の系統性を意識することで、全学年を見通した各学年の授業を展開することができます。

### ○ 調査問題や過去の資料(「解説資料」「授業アイデア例」等)の活用

教材や題材を選ぶ際に、調査問題を参考にすることで、授業の幅も広がります。また、調査結果を踏まえ、関連する過去の資料を活用することにより、児童生徒のつまずきやすいところが明らかになり、授業改善のヒントが見つかります。

## 質問紙に関する調査結果

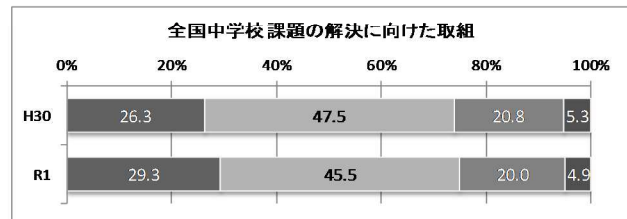
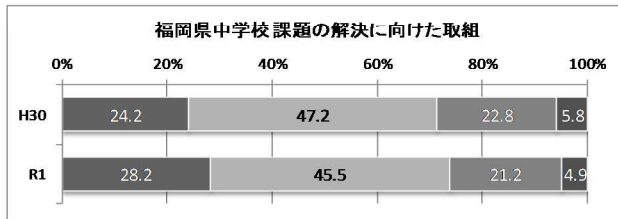
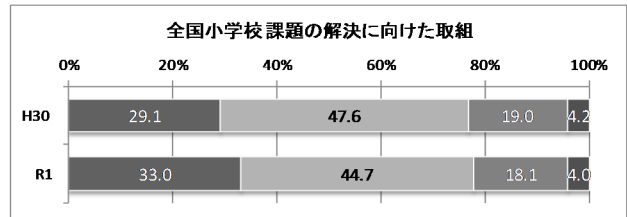
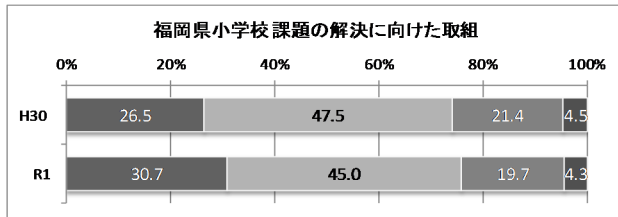
### 児童生徒質問紙

報告書 P.56～

「課題解決に向けた授業改善に対する児童生徒の捉え」の肯定的な回答は、昨年度よりも増加していることから、各学校における授業改善が進んでいることがうかがえる。その他の回答「基本的な生活習慣」「規範意識」「学習に対する関心・意欲・態度」等についても、昨年度よりも肯定的な回答が増加している。

### ◆課題の解決に向けた取組

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

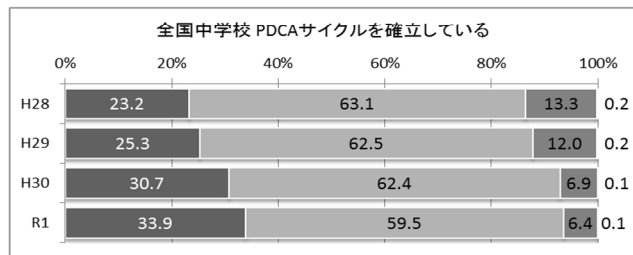
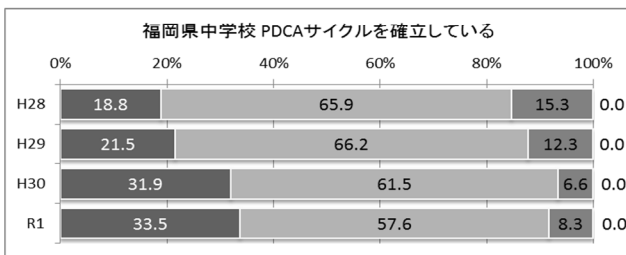
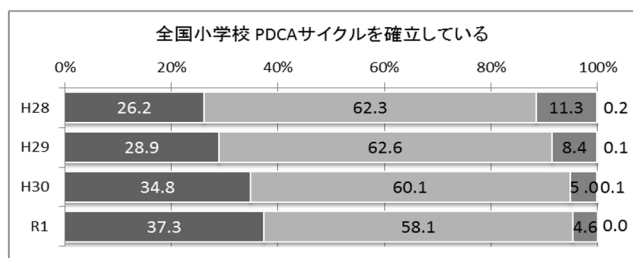
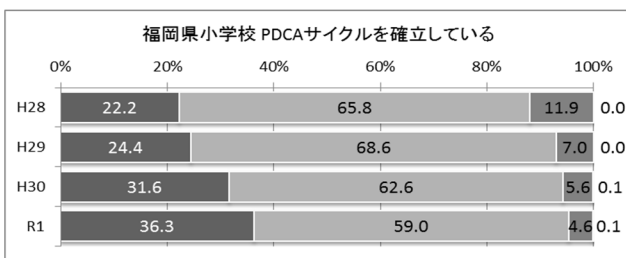
### 学校質問紙

報告書 P.72～

「PDCAサイクルの確立」についての肯定的な回答は、年々増加傾向にあることから、各学校における学力向上に向けた検証改善が進んでいることがうかがえる。その他の回答「補充的な学習」「調査問題を活用した授業改善」「ICTの活用」等についても、昨年度よりも肯定的な回答が増加傾向にある。

### ◆学力向上に関する検証改善サイクルの確立

児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない

## 質問紙に関する調査の比較分析

### 児童生徒と教員(学校)の回答状況の比較

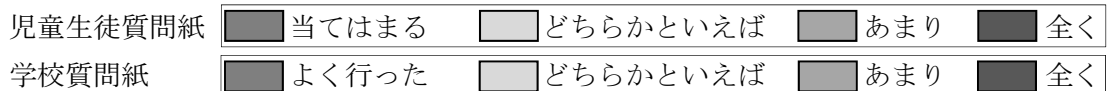
報告書 P.89～

「自己有用感」に関する回答結果では、教員の取組意識と児童生徒の受け止め方に差があることから、教員の指導を児童生徒にさらに浸透させる手立てが必要と考えられる。その他の回答「合意形成」「挑戦心」に係る取組等でも、教員の取組と児童生徒の受け止め方に差がみられた。

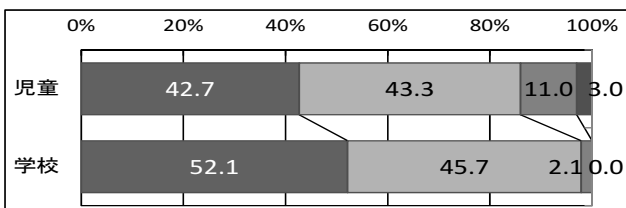
#### ◆自己有用感

児童生徒:先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか。

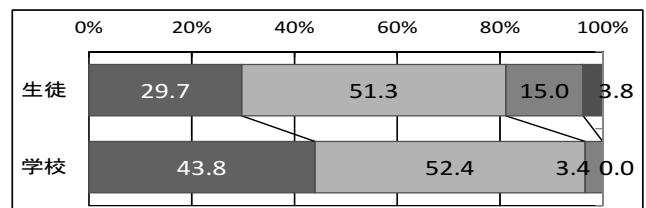
学校:児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組をどの程度行ったか。



#### ■小学校



#### ■中学校

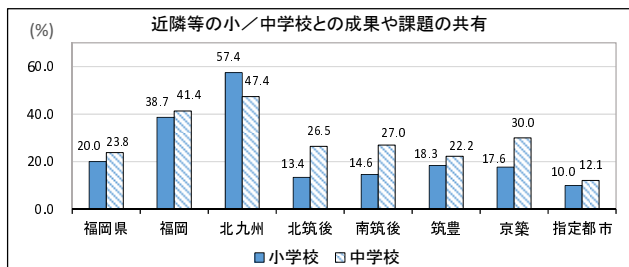


### 小学校と中学校の回答状況の比較

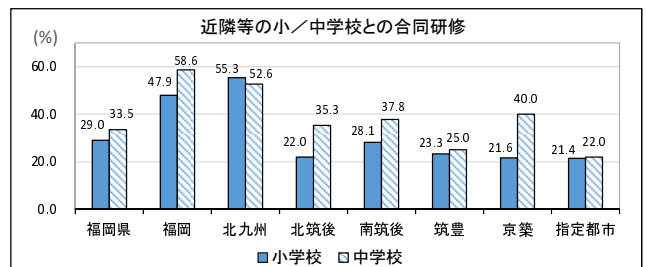
報告書 P.92～

「小中連携の取組」の回答結果では、多くの地区において、中学校(中学校区)を中心とした学力向上の取組が推進されていることがうかがえる。

#### ◆学力調査の成果や課題の共有



#### ◆小学校と中学校との合同研修

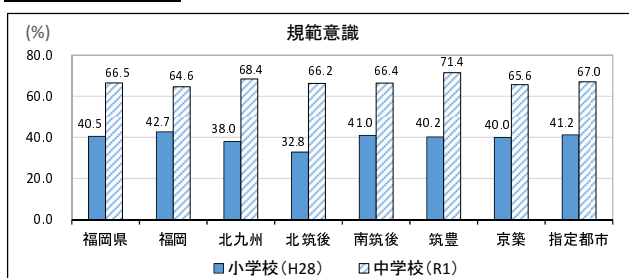


### 同一集団(H28小6とR1中3)の比較

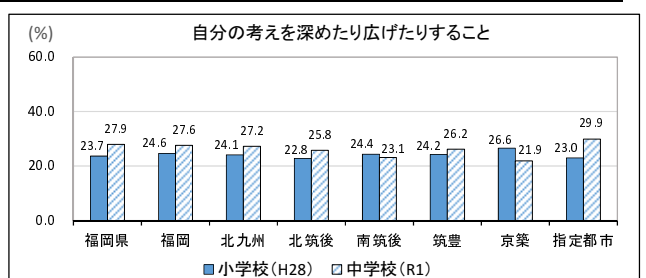
報告書 P.94～

「規範意識」「自分の考えを深めたり、広げたりすること」の回答結果では、多くの地区において、小学校で育まれた素地が中学校において確実に伸長していることがうかがえる。

#### ◆規範意識



#### ◆自分の考えを深めたり広げたりすること





◆これまでの取組の「○成果」と「●課題」

- 学力調査結果において、小学校は5年連続上昇傾向、中学校は4年連続改善傾向にある。
- 学力向上に関する検証改善サイクルが着実に実施されている。
- 小学校で培った学力を、中学校で十分に伸ばせていない。

◆今後の取組

＜今後の改善の視点＞

- ・ 小中一貫した指導等による「授業改善」
- ・ ミドル・リーダー等の「人材育成」
- ・ 管理職のリーダーシップによる「学校マネジメント」

小中9年間を通じた『授業改善』による学力向上

人材育成 支援

- **学校の中核となるミドル・リーダーの育成**
  - ・ カリキュラム・マネジメント力を磨く研修の充実
  - ・ 職能成長を図る業績評価の充実
  - ・ 学校経営参画力を高める管理職面談の実施

【学力向上推進拠点校事業】  
【福岡県地区間交流研修】
- **県全体の教科指導リーダーの育成**
  - ・ 専門性を備えた教科指導者研修の充実
  - ・ 実践的指導力を高める授業公開等の実施
  - ・ 各地区教科等研究会との連携

【コア・ティーチャ―指導力向上講座】  
【各地区教科等研究会の情報収集】
- **若年教員の授業力育成**
  - ・ 教員育成指標に基づく若年教員研修の充実
  - ・ 初任者指導教員連絡協議会の開催

【若年教員（初任者）研修】  
【ふくおか若年教員育成事業】

授業改善 支援

- **小中一貫した指導による授業づくり**
  - ・ 9年間の視点に立った学力向上プランの充実
  - ・ 中学校区における小中合同研修会の充実
  - ・ 中学校区における学習指導の一貫性の確保

【学力向上強化市町村指定事業】  
【重点課題研究指定・委嘱事業】
- **思考力・判断力・表現力等を育む授業づくり**
  - ・ 四分位層分析等を活用した学力調査結果分析
  - ・ 「書くこと(振り返り)」を重視した授業改善
  - ・ 学力調査結果を踏まえた「指導資料」の活用

【全国及び県学力調査結果の分析】  
【全国調査結果を踏まえた指導資料の作成】  
【教育事務所によるフォローアップ訪問】  
【「主体的・対話的で深い学び」授業実践講座】
- **指導と評価の一体化を重視した授業改善**
  - ・ 高校入試問題を活用した授業づくりの推進
  - ・ 活用力を見取る定期考査問題の収集
  - ・ 授業評価による授業改善の充実

【「定期考査問題の作り方」の作成・配布】  
【高校入試問題活用資料提供】  
【学力向上推進拠点校指定事業】

小中をつないだ取組の充実

学校のマネジメント 支援

- **カリキュラム・マネジメントの充実**
  - ・ 教育課程の編成、実施、評価の適切な管理
  - ・ 非認知的能力の育成するプロジェクトの実施
  - ・ 今日的課題に対応する指導計画の作成と環境整備

【学力向上推進拠点校指定事業】  
【鍛ほめプロジェクト推進事業】  
【英語教育推進・プログラミング教育推進事業】
- **管理職のリーダーシップとマネジメント**
  - ・ 校長による経営課題、教育課題の的確な把握
  - ・ 職員のモチベーションを高めるマネジメントの理解促進
  - ・ 中学校区を中心とした小中連携教育の推進

【管理職研修・新任管理職研修】
- **地域や保護者、関係機関等との組織的な連携**
  - ・ 「社会に開かれた教育課程」を実現する学校評価の充実
  - ・ 地域の教育力を活用した学校運営の推進
  - ・ 課題解決のための関係機関等との円滑な連携

【コミュニティ・スクール推進事業】

【県教育委員会としての今後の取組】